

令和5年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

日 時	令和5年5月29日（月）午前10時～午前11時30分											
場 所	羽島市役所301会議室											
出席者	<p>（生涯学習都市推進会議委員）出席者17人（欠席者3人）</p> <p>松井 聡 委員(市長)</p> <p>坂田田壽子 委員(社会教育委員代表)</p> <p>岩田 清顕 委員(P T A連合会代表)</p> <p>山田 光子 委員(老人クラブ代表)</p> <p>小森 博昭 委員(スポーツ推進会議代表)</p> <p>森山 健 委員(小中学校代表)</p> <p>大野木 真 委員(自治委員会代表)</p> <p>益川 浩一 委員(学識経験者)</p> <p>近藤かよ子 委員(学識経験者)</p> <p>石黒 恒雄 委員(副市長)</p> <p>森 嘉長 委員(教育長)</p> <p>三輪 弘司 委員(健幸福祉部長)</p> <p>横山 郁代 委員(健幸福祉部子育て・健幸担当部長)</p> <p>加藤 光彦 委員(産業振興部長)</p> <p>小川 剛矢 委員(障がい者支援団体代表)</p> <p>加藤 悦子 委員(公募委員)</p> <p>田谷由紀子 委員(公募委員)</p> <p>（事務局）</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">伊藤佳津子 市民協働部長</td> <td style="width: 50%;">岩田 睦巳 生涯学習課長</td> </tr> <tr> <td>牧野 充守 市民協働課長</td> <td>柴田 泰宏 スポーツ推進課長</td> </tr> <tr> <td>番 重宗 図書館長</td> <td>高橋 浩之 学校教育課長</td> </tr> <tr> <td>浅野 貴久 危機管理課長</td> <td>大橋 寛子 生涯学習課主幹</td> </tr> <tr> <td>吉田 智紀 同課係長</td> <td>牛田紗耶香 同課主事</td> </tr> </table>		伊藤佳津子 市民協働部長	岩田 睦巳 生涯学習課長	牧野 充守 市民協働課長	柴田 泰宏 スポーツ推進課長	番 重宗 図書館長	高橋 浩之 学校教育課長	浅野 貴久 危機管理課長	大橋 寛子 生涯学習課主幹	吉田 智紀 同課係長	牛田紗耶香 同課主事
伊藤佳津子 市民協働部長	岩田 睦巳 生涯学習課長											
牧野 充守 市民協働課長	柴田 泰宏 スポーツ推進課長											
番 重宗 図書館長	高橋 浩之 学校教育課長											
浅野 貴久 危機管理課長	大橋 寛子 生涯学習課主幹											
吉田 智紀 同課係長	牛田紗耶香 同課主事											
内 容	<p>1 委嘱書交付（机上交付）</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 意見交換</p> <p style="padding-left: 20px;">羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画に基づく令和5年度の主な取り組みについて</p>											

令和5年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

- ・資料に基づき生涯学習課長より説明
(資料 p.3～4、「1家庭」～「2青少年」)
- ・会長の進行に基づき、各関係委員および事務局担当部署から各項目について補足説明

【質疑応答】

(委員) 未就園児とふれあう機会が多いがコロナによるマスクの弊害で会話によるコミュニケーションがとれない子どもが増えたと感じている。また、他団体から言語訓練が必要な子どもが増えてきているとも聞いている。福祉課と教育委員会と横の繋がりを深めて妊娠期から子育て世代に対する取り組みに生かしてほしい。

(委員) 市では母子手帳交付時の面談、出産後の訪問や乳幼児教室を実施し、妊娠初期から就学前までをサポートする取り組みを行っている。また教育委員会と共に西部幼稚園、市内保育園、認定こども園を訪問し、園児の就学フォローを行っている。

(委員) 文部科学省によると小中学校において約8%が学びづらさ、話しづらさを感じているとなっている。就学前の保育教育と小学校に入ってから教育を円滑につなぐためにも、西部幼稚園訪問のような行政間の連携のみならず、市内の幼稚園・保育園とも会を設けるなど連携を取りながら、全市一体となり取り組みを行っている。

(委員) 家族が子育て中、不安があったが自宅訪問等でアドバイスを受けながら育てていた。最初は気負っていたが、今は焦らずゆっくり育てる大切さを実感している。コミュニケーションが大切、子ども同士のふれあいの場として児童センターがある。イベント等広く周知し多くの方に利用してもらえるとよい。

(委員) 羽島市男女共同参画プランのリーフレットは、中学3年の公民分野にて時期や内容等を精査し活用を検討している。教師と生徒にアンケートを取り、次の改定に反映していただけるとありがたい。

令和5年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

次に適応指導教室のぞみの開設は教育現場も、また保護者にとっても非常にありがたく感じている。羽島市南部にも設置されるとより充実すると思う。

最後に警察署との連携については、具体的にどのような見直し内容か。

(事務局) 男女共同参画プランの改定についてはご意見を踏まえながら進めたい。

適応指導教室について、まずは小熊小学校への配置とあわせてオンラインでの幅広い支援を行い、南部への設置は今後の検討としたい。

警察署との連携について大きな改善点として、いじめとSNS等のインターネット対応に重点を置いた協定とする予定である。

(委員) 障がい者差別は理解が大切である。市民、障がい者、高齢者等、交流のなかで理解しあう、新たな学びとして様々な形の理解を多くの人に学んでいただきたい。

(会長) 西部幼稚園では障がいのある子ども、外国籍の子どもなど積極的に受け入れており、支援員の増配等の対応を行っている。様々な理解という言葉があり男女共同参画はまさにその通りだが、お互い生活や活動を共にするといった理解教育も必要と感じる。

また、市内にはパラスポーツで全国的に活躍されている方もお住まいであり、交流の機会を設けるなど様々なご意見をいただきながら理解に向けて進む必要があると考えている。

・資料に基づき生涯学習課長より説明

(資料 p.5～6、「3地域における学び」～「4生涯スポーツ」)

・会長の進行に基づき、各関係委員および事務局担当部署から各項目について補足説明

【質疑応答】

(委員) 放課後子ども教室の募集はどのように行っているか。

令和5年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

- (事務局) チラシを、小学校を通して該当する学年の皆さんに配布するとともに、市公式ホームページに掲載して、募集を行っている。
- (委員) 放課後子ども教室の立ち上げに関わったが、ようやく市内全小学校で実施する形となった。子どもを取り巻く環境は市内の地域差を感じる。堀津地区などでは子どもが少ない上に、大人もなかなか関わりが持てない。そのなかで放課後子ども教室の開催となると外部の地区から講師を招くこともあるが、堀津地区にも様々な活動団体がある。横の繋がりを強めそういう方々との関わりを深めると、子ども達の活動も広がり大人の居場所づくりにも繋がると思う。
- (会長) 堀津地区は人口が減少傾向である。区画整理区域は他にも多くあり、従来から暮らす世帯と新しい世帯と人口構造が二極化して指摘のような課題があると思われるがご意見を頂けるとありがたい。
- (委員) 子どもの数は減少傾向であり、学校以外の様々な地域の方との交流における居場所づくりや学びは子ども達の成長にとって非常に大きい。放課後子ども教室のような活動が広がり、生涯学習として自分たちが得た知識や技能を子ども達に伝え、分かち合い循環していけばよい場になると感じる。
- (委員) 共働き家庭が多くなり、家でも子どもの居場所があるのかどうか疑問に思う。横の繋がりを通して親も子もそれぞれの居場所づくりを並行していただけるとよいと思う。
- (会長) 防災分野の取り組みとしては、自治委員を対象としたワークショップ、また竹鼻南コミュニティセンター管内での近所づきあい防災訓練を開催した。防災訓練では600名の方が参加、中学生ボランティアも67名と、実地体験から飯盒炊さんまで多彩な活動を実施した。防災関係で経験談やご意見をいただきたい。

令和5年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

（委員） 小熊町では令和3年度の内閣府の事業で手を挙げ、今年の2月に地域防災計画が完成した。また子ども会協力のもと危険個所を見つけようと危険マップを作成した。マップは小学6年生と作成したが、毎年実施できるとよいと思う。

また、地域の学びとしてはコロナ禍でコミュニティセンター講座や地域の伝統的な行事が縮小、中止を余儀なくされ残念であったが今年度は開催できると思われる。3年ほど活動がなく再開に不安はあるが、地域の方や子ども会、保育園、小中学校と共に取り組んでいけたらと思う。

それから、シティカレッジ講座を知らないという声を聞くが、広報の仕方等が課題と思われる。また、認定講師は何人くらいいるのか等教えていただきたい。

（事務局） シティカレッジ講座は、ホームページだけではなく広報紙や自治会回覧等紙ベースで周知している。ご意見を参考にさせていただきながら工夫していきたい。

認定講師は令和3・4年度で6名の方を輩出した。コミュニティセンター講座等で活躍している方もいる。今年は現時点で14名の応募があり、市民の方々の興味関心が高まっていると思われる。地域づくり型生涯学習に向けてさらに広げていきたい。

（委員） 総合型スポーツクラブに携わっており、令和3年度クラブ化した竹鼻中学校では運動部に所属する生徒のうち約80%が土日のクラブにも所属していると聞いた。クラブ化の利点として各中学校に無い競技に参加が可能になる。自分のやりたいスポーツができる組織作りも併せて市内全中学校のクラブ化を進めているところである。

なお障がい者スポーツという表現はパラスポーツという表現に変わってきている。現在、障がい者、健常者、また老若男女問わず参加できるスポーツをパラスポーツとして行っている。

（委員） 障がい者スポーツ推進ではボッチャを扱っているが、ボッチャは団体性が高いため他の競技も取り入れてはどうか。例えば「全国障害者スポーツ大会」にはフライングデ

令和5年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

イスクという競技がある。円盤を投げ入れる競技で個人でも参加しやすい。

(会長) 提言いただきましたので事務局は調整をお願いしたい。

(委員) はしまシティカレッジは地域人材の育成を体系的に講座に組み立てておりよい。羽島市が目指す地域づくり型生涯学習の一番の核になる取り組みだと感じる。

2点目、講座のYouTube配信とあったが、リアルとオンラインの適切な組み合わせでの教育活動の推進をお願いしたい。

3点目、障がい者の生涯学習推進は国の大きな政策のひとつとしてあるが、学びの機会へのアプローチが課題としてある。少し視野に入れて取り組んでいただけるとありがたい。

(委員) 講座は会場でのコミュニケーションもよいが、人数の関係などあるのでオンラインで同時開催もよいと思う。

(会長) そのような形での対応を検討願う。

(委員) 地域で軽スポーツ大会がありお手伝いとして参加した。3種目のスポーツがあり見てもルールがわからなかった。この機会にルールを覚え様々な競技に参加したい。

(委員) 総合型スポーツクラブに関して、知っていただきたい課題がある。令和5年度、一般のクラブが中学校総合体育大会（中体連）に参加できるようになった。種目により異なるが中学校（総合型スポーツクラブ）、一般のクラブどちらからでも参加できる。しかしどちらかしか選べないので一人の生徒が、中学校（総合型スポーツクラブ）か一般のクラブ、どちらから出場するかの選択を迫られる場合があるとご承知いただきたい。

(委員) 地域における学びにある防災ワークショップは、小さい規模でも開催可能か。

また、観光ボランティアの高齢化を感じた。どのボラン

令和5年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

ティアもそうだが少なくなってきた。観光でいうと地域を回るスタンプラリーや、子どもから親までできる講座のようなものがあるとよい。

(事務局) 防災ワークショップは今年度から始めたが、従来は座学的な講座を出前講座で行っていた。今回から自分ごとと捉えていただくワークショップ体系に切り替えた。地域や老人クラブ、子ども会など皆さんのご要望にお応えして、同じ形態で開催が可能である。ぜひ申し込んでいただきたい。

観光ボランティアガイドはおっしゃる通り高齢化の問題があると感じている。観光ボランティアは地域特性、歴史や要因といった知識が必要であるため、知識をお持ちになる方々から次の世代に引き継ぐ人材の発掘を行いたい。そういった方々の紹介や声掛けをお願いしたい。

(委員) 竹鼻まつりに参加したが、どこの場所でも高齢化の話が出る。NPOでも担っている部分があるので、できれば次の時代の若い方たちに継承できるような動きをしたいと思います。防災においては、竹鼻南エリアが何年も熱心な活動を続けている。この地域に災害がないのが幸いだが、地域でも防災ワークショップに参加していきたい。

- ・資料に基づき生涯学習課長より説明
(資料 p.7～8、「5文化」～「6その他支援」)
- ・会長の進行に基づき、各関係委員および事務局担当部署から各項目について補足説明

【質疑応答】

(委員) 竹鼻まつりでは、小学生がお囃子体験を行いお祭りで発表するというとてもよい機会があった。私が所属する団体でも文化を中学生や高校生に繋げればと思い、羽島高等学校の生徒に着物の着付けを行った。パンフレットの配布や八剣神社でお茶出しなどをお手伝いいただき、皆さんの素晴らしい姿が見られた。参加してよかったという声をもらい地域の活動をつなげていくこと、また小さなころから体験することはよいことだと感じた。羽島市の素敵なおところ

令和5年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

を皆さんに知っていただけたらと思う。

（委員）

お話にあったような、高校生を含めたふるさと学習のような、地域に愛着と誇りを持つ機会が設けられていることは大変素晴らしいと思う。

その他支援にある、放課後子ども教室への学生ボランティアでも子ども達と交流する機会を持たせていただいている。先ほどのご意見で親の居場所とあったが、放課後子ども教室への大学生の参加は実は大学生にとっても子どもと接する貴重な勉強の場として機能しているところである。一方子ども達にとっても、先生や保護者と子どもの縦の関係、友達同士の横の関係、それから先ほどの地域の方との斜めの関係に加えて、少し年上のお兄さんお姉さんである大学生と交流する機会は貴重なのではと思う。今後も、大学生の勉強の場として、また子ども達の貴重な機会と捉え、学生ボランティアを受け入れていただければと思う。

（委員）

1 家庭の子育て世代への利用者支援事業について、図書館での赤ちゃんタイムなど1歳未満の赤ちゃんと母親が集う場所があるが、家庭訪問も大事だが子が勇気を出し社会の中に行くことで他者と関わるためにも、PRが必要かと感じる。

学生ボランティアのお話があったが、図書館のお話ボランティアも高齢化が進んでいる。自身の達成感だけではなく、これからは若い人にボランティアとして関わっていただくためにも、ボランティアの意味、楽しさ、役立つことの意味を伝えていかねばと反省している。

図書館まつりでは羽島高等学校の図書委員の方が参加してくれるが途切れてしまう。若い人に関わり続けてもらえるよう努力したい。

（会長）

正木町の紹介をしたい。人口でいうと竹鼻・正木は二つの人口拠点である。正木小学校区子ども会でも先般、羽島高等学校の吹奏楽部を招き親子参加のコンサートを行った。また、須賀の地域防災計画を作られた方を講師とした親子防災教室もあった。これらは地域の独自事業として地

令和5年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

域の様々な方と連携し進めているケースである。大きな町だからできる、ということではないと思うのでそういう先進事例も皆さまの地域活動の参考としていただきたい。最初は大人数でなくても、何か地域によい足がかりとなるような事業計画があるとしっかりとしたサポートができる。

このような形で今回の論議は終了とさせていただくが、最後に来年度市制70周年を迎える件について説明したい。

(委員) その前に1点、新聞に岐阜市の終活情報を登録する制度が掲載されていた。終活について健幸福祉部よりお話いただきたい。

(委員) 羽島市ではエンディングノートを作成し市公式ホームページに掲載するほか、必要に応じて高齢福祉課でお渡しする形をとっている。自分が亡くなったとき、認知症になったとき、かかりつけ医や財産などお子さんが何も知らなくて困る。適切な情報確認ができるうち、元気なうちにやっていただきたいと考え進めている。

(委員) 岐阜市が終活情報の登録を行うが、まだその情報を市が持つべきかという検討もあるが、今後羽島市が行うかどうか検討をしていきたい。

市制70周年について、岐阜県内では瑞浪市、恵那市が共に70周年を迎える。羽島市では来年度に向けて事業計画を検討している。現時点では来年秋の式典や、市民ミュージカルを検討している。各団体の皆さんもアイデア等あれば、またお話しいただきたい。

意見交換終了・閉会